

参考（ポテンシャルマップの例）：止水性イトトンボ類

図1

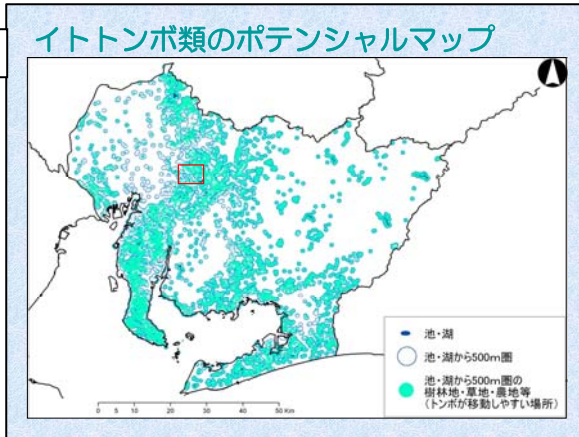


図1)

池や湖など、流れていない水辺に生息するイトトンボ類は、池や湖の間が1キロメートルであれば行き来できることが分かっています。この地図では、愛知県内の池と湖の周囲500メートル以内にある緑地（イトトンボの移動に適した場所）を水色で示しています。

図2

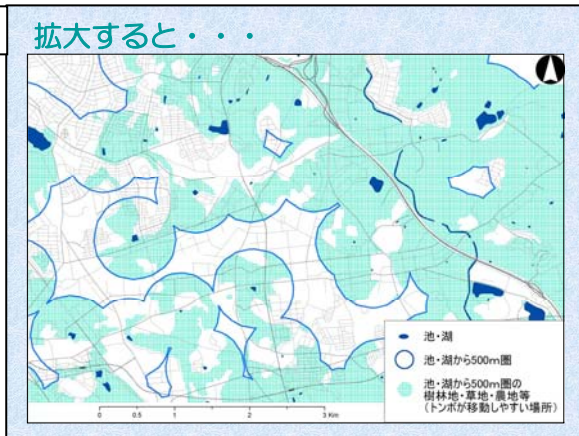


図2)

図1の赤色の地域を拡大したものです。濃い青色は池や湖を、青い線で書かれた円はその周囲500メートルの範囲を示しています。円と円が接していれば、池と池の間は1キロメートル未満ということです。水色は緑地、つまりイトトンボが飛び回る適地を示しています。イトトンボの生態系ネットワークを作るためには、水色の途切れたところをつなげることが必要です。

図3

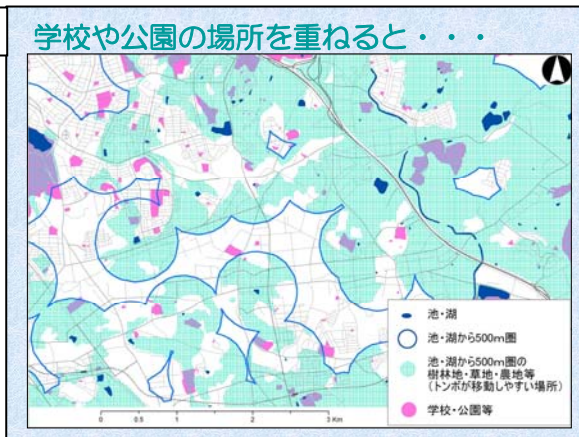


図3)

図2に、イトトンボの道（生態系ネットワーク）を作るために、活用できる可能性のある公的な場所（学校や公園など）を重ねた地図です。学校や公園はピンクで示しています。

図4

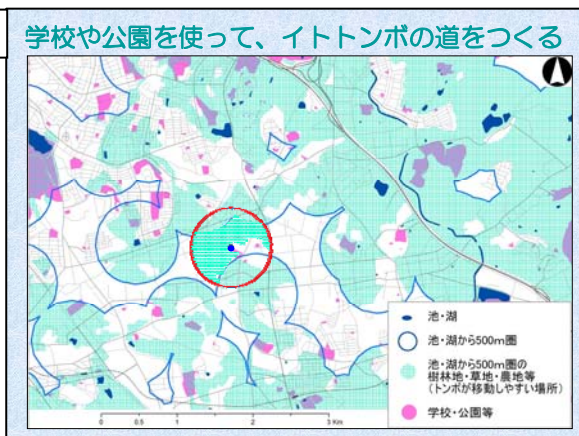


図4)

学校や公園を使ってイトトンボのための水辺のビオトープを作ると、赤い円の部分がつながり、イトトンボの道ができます。

***実際の「あいちの生物多様性ポテンシャル 気づく・まもる・つなげるマップ」では、図3のように、生息適地や移動に適した場所などを示しています。**